



神様がよいことをしてくださると 確信して、祈っていきたい

横田早紀江

先月は京都の兄が逝去し、その葬儀のために祈り会を失礼させていただきました。息子たちときれいな緑の中を宇治の斎場に向かった時は、悲しい中にも、忘れられない感動的な情景でした。「お兄ちゃん、今すばらしい最後のドライブをしているところだよ」と言いながら、兄を見送らせていただきました。

亡くなるちょっと前に見舞った時、もう少しいるほうがいいのかどうか迷ったのですが、こちらでも放っておけないことがあったので帰ってきました。それからすぐ、危ないということで5月17日の午後出発して京都に着くと、(施設から)電話が入り、「声をかけてももう返事をなさいませんので、多分亡くなったと思います」と言われて、びっくりして、力が抜けるようでした。ホテルで休んで、翌日早く起きて病院に向かい、兄と対面しました。

ついその2、3日前、(息子の)哲也も連れて行った時、「来てくれたんかあ」とニコニコし、手を差し伸べて、「めぐみがなあ、めぐみがなあ」と言うので、「めぐみちゃんには孫がいて、お父さんが見て喜んでくれたから。あんなに元気な孫

がいるくらいだから(めぐみは)絶対大丈夫」と言う、「そうかあ。それならよかった」と安心したようです。はっきり最期を自覚していたと思います。静かににこやかに、眠るように、旅立っていきました。

皆そのように別れの時がくるのだと改めて感じました。めぐみのこともやっぱり時がこないと成らないのでしょうか。

私たちには「神様の時」はわかりませんが、皆でこうして祈って、祈って、日本のためにこれは祈らなければならぬ問題だということまでできています。国民の間にも拉致問題が大きな広がりを見せ、みなさんが「この国がもっとしっかりしなければだめだ」とおっしゃるくらいになりました。

今、新聞やテレビを見ている、何ともいえない人間の罪がどろどろと出てきたような世界情勢になってきて、「ああ、神様のおっしゃるとおりだ」と実感します。人の罪が膨らんでいき、見境がなくなって突っ込んでいくのが戦争であることを、まざまざと知らされます。岸田総理が今、海外に出られているいろいろな国と話し合いをしており、その中で



拉致問題のことも言ってくださっているようですが、まだまだ、そんな状況でしかないのでしょうか。北朝鮮の金正恩氏が心を変えてくれて、「彼らを日本に返さなければ、この国がもたない」と認めるといいのですが、なかなかそこまでいかないのが歯がゆくてしかたありません。

5月半ばから、京都に行って帰ってを繰り返し、帰って来た翌日にはバイデン(米大統領)さんとお会いし、そのあと演奏会、国民大集会と続きましたので、そこまでは倒れられないと、「保つようにしてください」と祈りながらの日々でした。みわががなされるように求め、神様が善いことをしてくださると確信して祈っていきたいと思います。「ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています…」(Ⅱコリント4:16～18)とのみことばに励まされています。

(2022年6月16日第213回祈り会)